

2019年度決算説明資料

出光興産株式会社

2020年5月26日

目次

1. 2019年度第4四半期トピックス

2. 2019年度決算

(1) 概要

(2) セグメント別情報

3. 2020年度業績予想

4. 参考資料

2019年度第4四半期トピックス

トピックス

1. 新型コロナウイルス感染拡大に伴う原油価格の急落の影響

- ・OPECプラスの協調減産協議決裂等により、ドバイ原油価格は3月に20ドル前半まで急落したことにより、在庫評価損・タイムラグが発生。

2. 新型コロナウイルス感染拡大の影響

- ・石油製品を中心に需要軟化が3月より顕在化。

※前年同期比の販売数量

3月:ガソリン▲10%、軽油▲10%、JET燃料▲50%

3. 経営統合の進捗状況

- ・19年度の統合シナジーは、計画を上回る350億円が実現。
- ・2020年4月1日までに全事業の承継が完了。

4. ベトナム ニソン製油所の状況

- ・昨年の設備の検査・補修工事完了後、フル稼働を実施。
- ・(個別決算において)当社が保有する株式につき減損処理を実施し、関係会社株式評価損339億円を計上。

5. 新型コロナウイルスへの対応

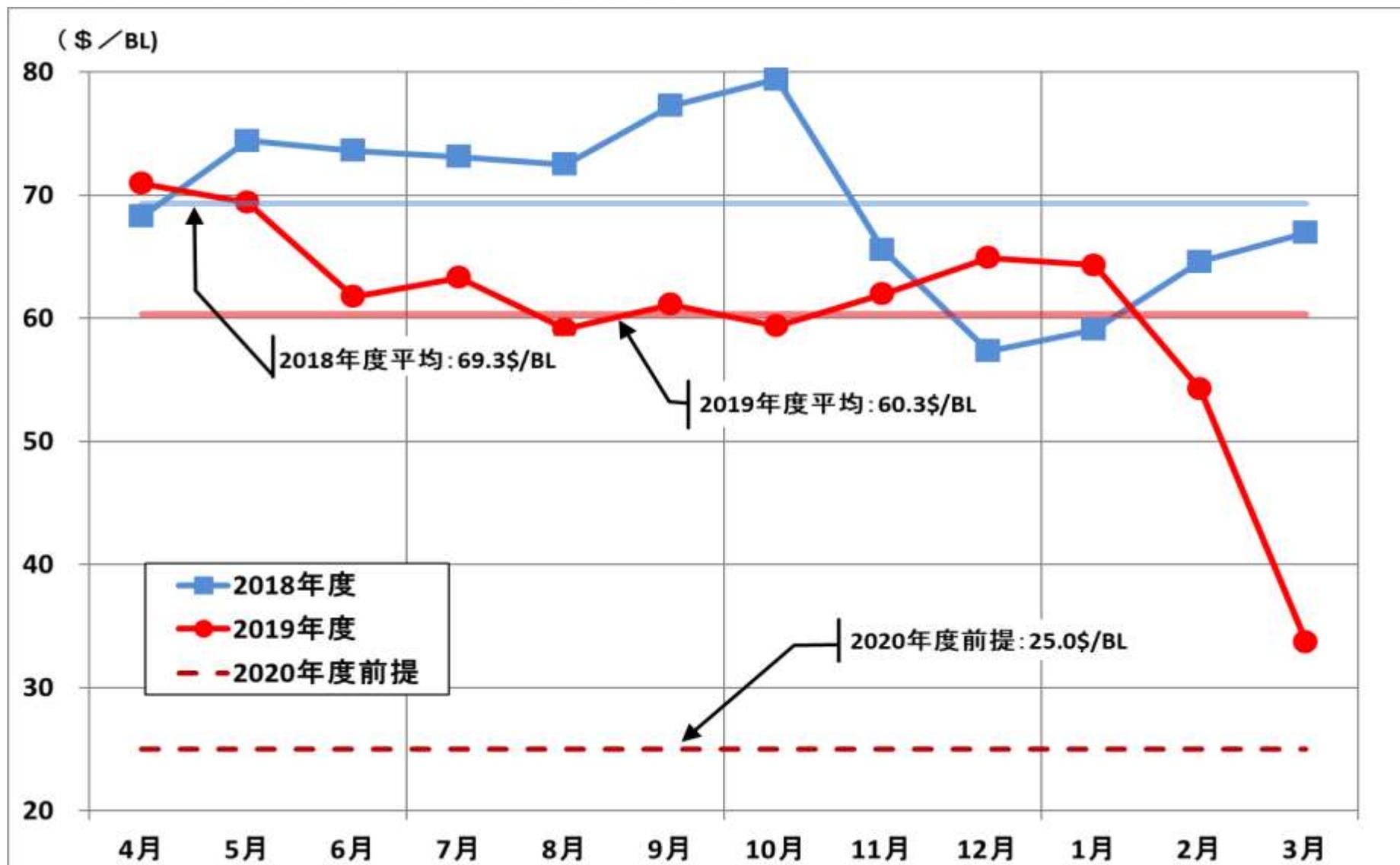
- ・2月4日に社長 木藤俊一を本部長とする「新型コロナウイルス（COVID-19）対策本部」を設置し、感染拡大の防止とともに、製品の安定供給確保のための情報収集や対策検討体制を整備した。
- ・緊急事態宣言発令後も、経済および社会生活に欠かせない石油製品等の供給については平常通り実施している。
- ・感染および感染拡大の防止を目的に、本社を含む国内の販売営業・研究等拠点は、原則、出社禁止とした。
- ・製油所、工場などの製造拠点は、従業員への感染防止策を徹底した上で操業を継続し、安定供給が可能な体制を確立できている。

2019年度決算

- ・18年度概算：出光興産および昭和シェル石油100%連結ベース合計の概算値
- ・セグメント別情報：営業利益＋持分法投資損益の合計

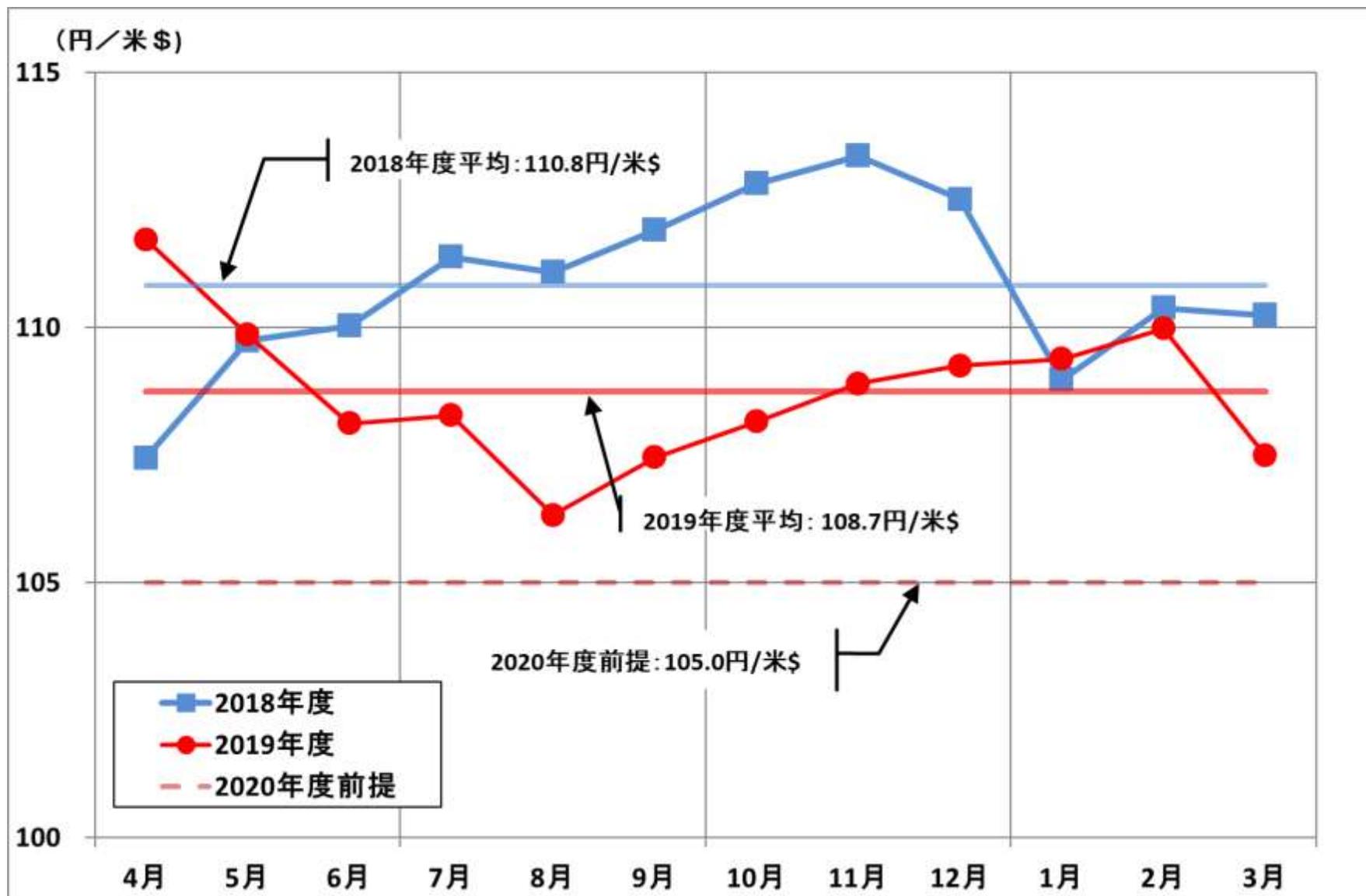
原油価格の推移

【ドバイ原油価格の月次推移と業績予想前提水準】



円／米\$為替レート(TTM)の推移

【円／米\$為替レート(TTM)の月次推移と業績予想前提水準】



総括

【2019年度決算】

■在庫影響を除く営業利益＋持分法投資損益は、燃料油セグメントにおけるタイムラグ影響による損失、投資先減益の他、基礎化学品セグメントの製品マージン縮小、資源セグメントの減益等から631億円（前年比▲1,553億円）となった。

■経常利益は▲140億円（前年比▲2,505億円）となり、親会社株主に帰属する当期純利益は、▲229億円（前年比▲1,175億円）となった。

【2019年度配当】

■2019年度通期配当金は、160円/株（第2四半期末配当金80円/株・期末配当金80円/株）とする。

(1)概要

①原油・為替

(単位：ドル/バレル、ドル/トン、円/ドル)

	'18年度実績	'19年度実績	増 減	
原油価格(ドバイ)	69.3	60.3	▲9.0	▲13.0%
原油価格(ブレント)	71.0	64.3	▲6.7	▲9.5%
ナフサ価格(通関)	621	540	▲81	▲13.0%
一般炭価格(NEWC)	107.1	77.8	▲29.4	▲27.4%
為替レート(TTM)	110.8	108.7	▲2.1	▲1.9%

※ブレント価格・一般炭価格は暦年(1~12月)の平均価格

②連結損益計算書(概要)

(単位：億円)

	'18年度概算	'19年度実績	増 減	
売上高	68,666	60,459	▲8,208	▲12.0%
営業利益				
+	2,291	▲262	▲2,554	—
持分法投資損益				
(在庫影響)	(108)	(▲893)	(▲1,001)	—
(除在庫影響)	(2,183)	(631)	(▲1,553)	(▲71.1%)
経常利益	2,365	▲140	▲2,505	—
特別損益	▲557	▲33	+524	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	945	▲229	▲1,175	—
(在庫影響除き)	(870)	(390)	(▲480)	(▲55.2%)

※たな卸資産の評価方法は総平均法を採用

※「在庫影響」は、在庫評価及びたな卸資産簿価切下の影響を含む

※数字は億円未満を四捨五入で表示

(2)セグメント別情報

①営業利益＋持分法投資損益増減分析(前年比)

(単位：億円)

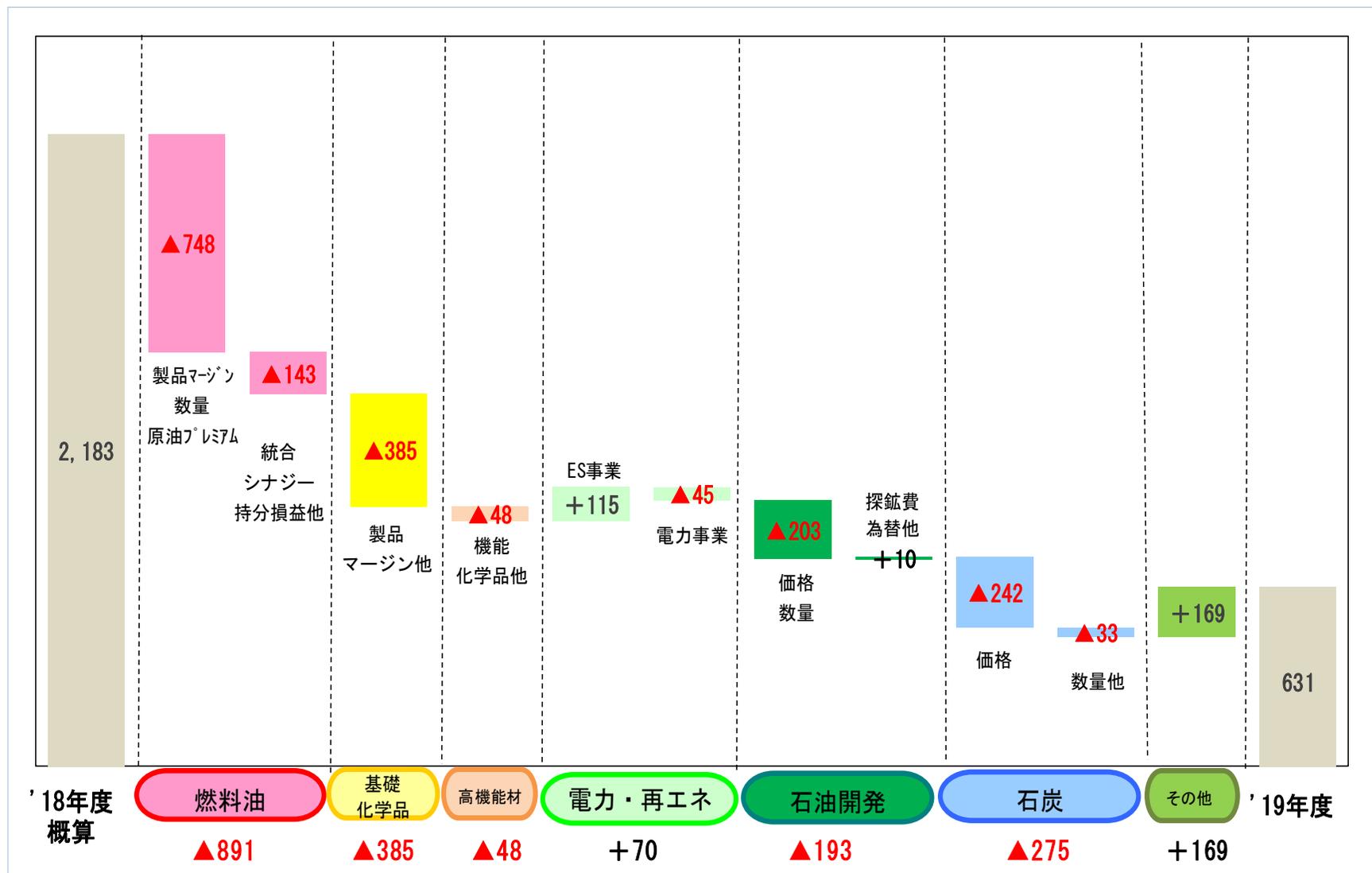
	'18年度概算	'19年度実績	増減	
燃 料 油	798	▲1,094	▲1,892	—
(在庫影響除き)	(690)	(▲201)	(▲891)	—
基礎化学品	504	119	▲385	▲76.4%
高機能材	332	284	▲48	▲14.5%
電 力	▲75	▲5	+70	—
再生可能エネルギー				
資 源	885	418	▲468	▲52.8%
(石油開発)	(371)	(178)	(▲193)	(▲52.1%)
(石炭)	(515)	(240)	(▲275)	(▲53.3%)
その他・調整額	▲154	15	+169	—
合 計	2,291	▲262	▲2,554	—
(在庫影響除き)	(2,183)	(631)	(▲1,553)	(▲71.1%)

※資源に含まれる「石油開発」及び「豪州石炭」は12月決算

(2)セグメント別情報

②営業利益＋持分法投資損益増減分析(在庫影響除き、前年比)

(単位:億円)



2020年度業績予想

(1) 新型コロナウイルス感染拡大の影響について

① 2020年度業績に与える主な影響

	内容
燃料油	・外出自粛要請や経済活動縮小による揮発油、軽油、JET燃料等の需要減 -販売数量見込(千KL,前年比): ガソリン12,500(▲12%)、灯油4,200(+7%)、軽油9,700(▲8%)、A重油3,000(▲10%) JET燃料 2,550(▲50%)
ベトナム ニソン製油所	・燃料油需要減の影響は、外出規制が解除され、日本と比較しては軽微と想定
基礎化学品	・製品販売は前年並み、需給の悪化に伴うPX・SM・MXなどの製品市況低下
高機能材	・潤滑油:客先の工場稼働減により減販、輸出減(▲10~20%) ・機能化学品:自動車向けなどPC需要減、市況低下
電力・再エネ	・電力・再エネ:高圧向けは減少も、低圧は外出自粛により増加し影響は限定的 ・ソーラー:数量減による稼働減
石油開発	・原油価格下落に伴う収益低下 -生産量見込(前年比):+10% ※前年特殊要因の反動を見込む
石炭	・景気後退による需要減、炭価下落 -生産量見込(前年比):前年並み

※上記は現時点の予測に基づいて作成しており、実際の影響は様々な要素により上記予測とは異なる可能性があります。

上記の影響が通期に亘り継続すると想定し業績予想を策定した

② 2020年度配当金予想

- ・2020年度通期配当金予想は未定とする

(2) 概要

① 原油・為替

(単位：ドル/バレル、ドル/トン、円/ドル)

	'19年度実績	'20年度予想	増 減	
原油価格(トバイ)	60.3	25.0	▲35.3	▲58.6%
原油価格(ブレント)	64.3	30.0	▲34.3	▲53.4%
ナフサ価格(通関)	540	300	▲240	▲44.4%
一般炭価格(NEWC)	77.8	55.0	▲22.8	▲29.3%
為替レート(TTM)	108.7	105.0	▲3.7	▲3.4%

※ブレント価格・一般炭価格は暦年(1~12月)の平均価格

② 連結損益計算書(概要)

(単位：億円)

	'19年度実績	'20年度予想	増 減	
売上高	60,459	39,000	▲21,459	▲35.5%
営業利益	▲262	250	+512	—
+ 持分法投資損益 (在庫影響)	(▲893)	(0)	(+893)	—
(除 在庫影響)	(631)	(250)	(▲381)	(▲60.4%)
経常利益	▲140	300	+440	—
特別損益	▲33	▲100	▲67	—
親会社株主に帰属する 当期純利益 (在庫影響除き)	▲229 (390)	50 (50)	+279 (▲340)	— (▲87.2%)

※たな卸資産の評価方法は総平均法を採用

※「在庫影響」は、在庫評価及びたな卸資産簿価切下の影響を含む

※数字は億円未満を四捨五入で表示

(2) 概要

③セグメント別情報

(単位：億円)

	'19年度実績	'20年度予想	増減	
燃 料 油 (在庫影響除き)	▲1,094 (▲201)	350 (350)	+1,444 (+551)	— —
基礎化学品	119	0	▲119	▲100.0%
高 機 能 材	284	0	▲284	▲100.0%
電 力 再生可能エネルギー	▲5	▲50	▲45	—
資 源 (石油開発)	418 (178)	▲30 (▲30)	▲448 (▲208)	— —
(石 炭)	(240)	(0)	(▲240)	(▲100.0%)
その他・調整額	15	▲20	▲35	—
合 計 (在庫影響除き)	▲262 (631)	250 (250)	+512 (▲381)	— (▲60.4%)

※資源に含まれる「石油開発」及び「豪州石炭」は12月決算

参考資料

目次

1. 事業概要

2. 決算関連

(1) 2019年度決算

3. 感応度

4. 販売と生産

(1) 販売・生産数量実績

5. 市況

6. 製油所稼働の状況

7. SS数推移

1. 事業概要

■ 燃料油

- 原油処理能力 **94.5万BD** ^{*1)}
- 国内燃料油販売量 **4,200万KL /年**
- SS数 **6,400カ所**

■ 基礎化学品

(生産能力)

- エチレン **100万t /年**
- パラキシレン **128万t /年** ^{*2)}
- スチレンモノマー **75万t /年**

■ 電力・再生可能エネルギー

- 発電能力 **1GW**
- うち 再生可能エネルギー **0.2GW**
- 太陽電池生産能力 **1GW /年**

■ 高機能材

潤滑油、機能化学品、電子材料、
高機能アスファルト、アグリバイオ、固体電解質

- 潤滑油販売量 **130万KL /年** ^{*3)}

(機能化学品生産能力)

- エンジニアリングプラスチック **15万t /年**
- 粘接着基材 **7.6万t /年**
- 有機EL材料生産能力 **10t /年**

■ 資源

- 原油生産量 **2.7万BD**
- 一般炭生産量 **1,200万t /年**

*1) 石油製品取引契約を締結する富士石油株式会社の原油処理能力を加えると109万BD

*2) ミックスキシレンの生産能力を含む数値

*3) シェルブルイカンツジャパン株式会社の販売量を除いた数値

2. 決算関連

(1) 2019年度決算

①セグメント別売上高

(単位：億円)

	' 18年度概算	' 19年度実績	増減	
燃 料 油	53,797	48,210	▲5,587	▲10.4%
基礎化学品	6,018	4,592	▲1,426	▲23.7%
高 機 能 材	4,363	3,938	▲424	▲9.7%
電 力	1,371	1,277	▲94	▲6.9%
再生可能エネルギー				
資 源	3,080	2,418	▲662	▲21.5%
(石油開発)	(775)	(489)	(▲286)	(▲36.9%)
(石 炭)	(2,305)	(1,929)	(▲376)	(▲16.3%)
その他・調整額	37	23	▲14	▲38.5%
合 計	68,666	60,459	▲8,208	▲12.0%

2. 決算関連

(1) 2019年度決算

② 特別損益明細

(単位：億円)

	' 18年度概算	' 19年度実績	増減
固定資産売却益	55	22	▲ 33
関係会社株式売却益	24	0	▲ 24
事業譲渡益	23	0	▲ 23
段階取得に係る差益	0	172	+172
その他	68	35	▲ 33
特別利益計	170	229	+59
減損損失	315	90	▲ 225
固定資産売却除却損	62	83	+21
LPG事業違約金	257	0	▲ 257
その他	93	88	▲ 5
特別損失計	727	262	▲ 465
特別損益	▲ 557	▲ 33	+524

2. 決算関連

(1) 2019年度決算

③ 連結貸借対照表

(単位: 億円)

	'19/期首	'20/3末	増減		'19/期首	'20/3末	増減
現金・預金	1,417	1,322	▲95	流動負債計	17,812	16,484	▲1,328
売掛債権 たな卸資産等	16,778	14,181	▲2,597	固定負債計	10,604	10,380	▲224
流動資産計	18,195	15,503	▲2,692	負債合計	28,416	26,864	▲1,552
有形固定資産	14,104	14,781	+677	株主資本 その他の包括利益累計額	12,556	11,500	▲1,056
その他固定資産	9,205	8,585	▲620	非支配株主持分	532	506	▲26
固定資産計	23,309	23,366	+57	純資産計	13,088	12,006	▲1,082
総資産計	41,504	38,869	▲2,635	負債・純資産計	41,504	38,869	▲2,635

ネットD/Eレシオ	0.75	1.05	0.30
有利子負債計	10,772	13,363	+2,591
自己資本比率	30.3%	29.6%	▲0.7%

2. 決算関連

(1) 2019年度決算

④ 連結CF計算書

(単位：億円)

	'19年度
営業活動によるCF	▲ 327
税金等調整前純利益	▲ 172
減価償却費	949
運転資本の増減	1,139
その他	▲ 2,243
投資活動によるCF	▲ 1,345
有形固定資産の取得	▲ 1,186
その他	▲ 158
財務活動によるCF	1,579
借入金等の増減	2,327
配当金支払	▲ 340
自己株式の取得による支出	▲ 132
その他	▲ 276
現預金等に係る換算差額等	▲ 9
現預金等の増減額	▲ 101
現預金等の期首残高	1,395
現預金等の期末残高	1,293

3. 感応度

(1) 原油価格1ドル/バレル下落の収支への影響

燃料油	精製用燃料費減少等	+ 1 0 億円
	在庫評価影響の減	▲ 5 0 億円
	計	▲ 4 0 億円
石油開発		▲ 1 0 億円

(2) 為替1円/ドル円高の収支への影響

燃料油	精製用燃料費減少等	+ 5 億円
	在庫評価影響の減	▲ 3 0 億円
	計	▲ 2 5 億円
基礎化学品		▲ 5 億円
石油開発		—

※上記の他に、資源事業において、ノルウェークローネ・豪ドル等の為替変動影響を受けます。

4. 販売と生産

(1)－①販売数量実績(燃料油セグメント)

(単位：千KL、%)

	'18年度概算	'19年度実績	増減	
ガソリン	15,386	14,119	▲1,267	▲8.2%
ナフサ	447	265	▲182	▲40.7%
ジェット燃料	5,261	4,979	▲282	▲5.4%
灯油	4,452	3,940	▲512	▲11.5%
軽油	11,380	10,585	▲795	▲7.0%
A重油	3,808	3,335	▲473	▲12.4%
C重油	3,550	3,332	▲218	▲6.2%
国内燃料油販売計	44,285	40,554	▲3,731	▲8.4%
輸出燃料油	4,118	3,811	▲307	▲7.4%
燃料油販売計	48,402	44,365	▲4,037	▲8.3%

4. 販売と生産

(1)－②販売数量実績(基礎化学品セグメント)

(単位：千t、%)

	'18年度概算	'19年度実績	増減	
基礎化学品	4,289	4,065	▲224	▲5.2%

(1)－③潤滑油、機能化学品販売数量実績(高機能材セグメント)

(単位：千KL、千t、%)

	'18年度概算	'19年度実績	増減	
潤滑油	1,271	1,192	▲79	▲6.2%
機能化学品	618	620	+2	+0.3%

※潤滑油は海外ライセンス販売先を含む

※潤滑油販売量はシェルルブリカンツジャパン株式会社の販売量を除く

(1)－④販売量実績(電力・再生可能エネルギーセグメント)

(単位：百万kWh、%)

	'18年度概算	'19年度実績	増減	
電力小売販売量	2,314	2,903	+589	+25.5%

4. 販売と生産

(1)－⑤石油開発生産量実績(資源セグメント)

(単位：千BOED)

	'18年度実績	'19年度実績	増減	
ノルウェー	26.8	20.9	▲6.0	▲22.2%
生産量合計 (千BOE)	9,795	7,622	▲2,173	▲22.2%

※数値は資源開発子会社の保有権益ベース

(1)－⑥石炭生産量実績(資源セグメント)

(単位：千t)

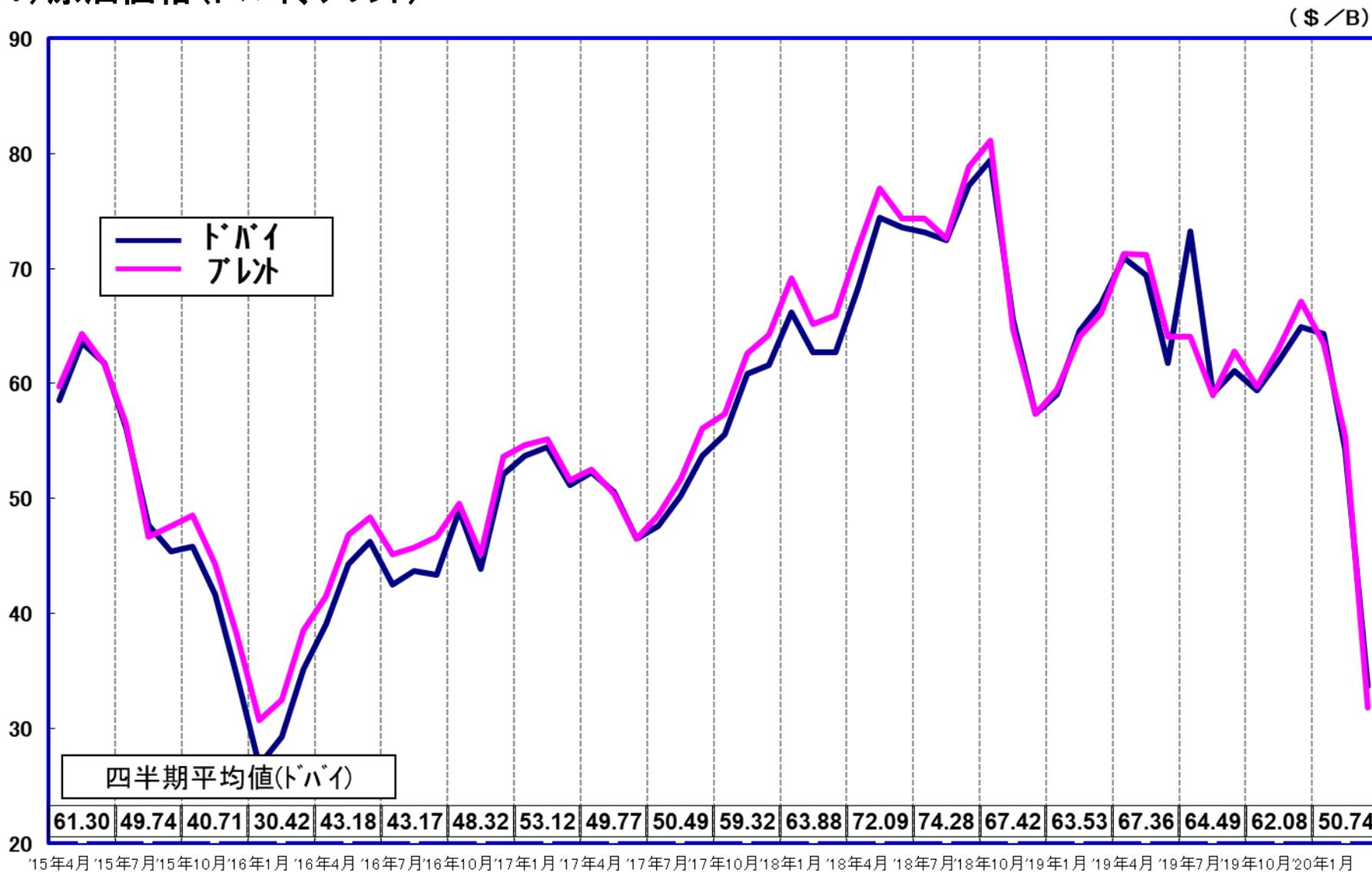
	'18年度実績	'19年度実績	増減	
エンシャム	4,453	4,144	▲309	▲6.9%
マッセルブルック	1,516	1,177	▲339	▲22.4%
ボガブライ	5,302	4,935	▲367	▲6.9%
タラウオンガ	204	0	▲204	▲100.0%
豪州石炭 合計	11,475	10,256	▲1,219	▲10.6%
マリナウ	1,068	1,256	+188	+17.6%
生産量 合計	12,543	11,513	▲1,030	▲8.2%

※数値は当社グループの保有権益ベース

※石油開発および石炭は12月決算

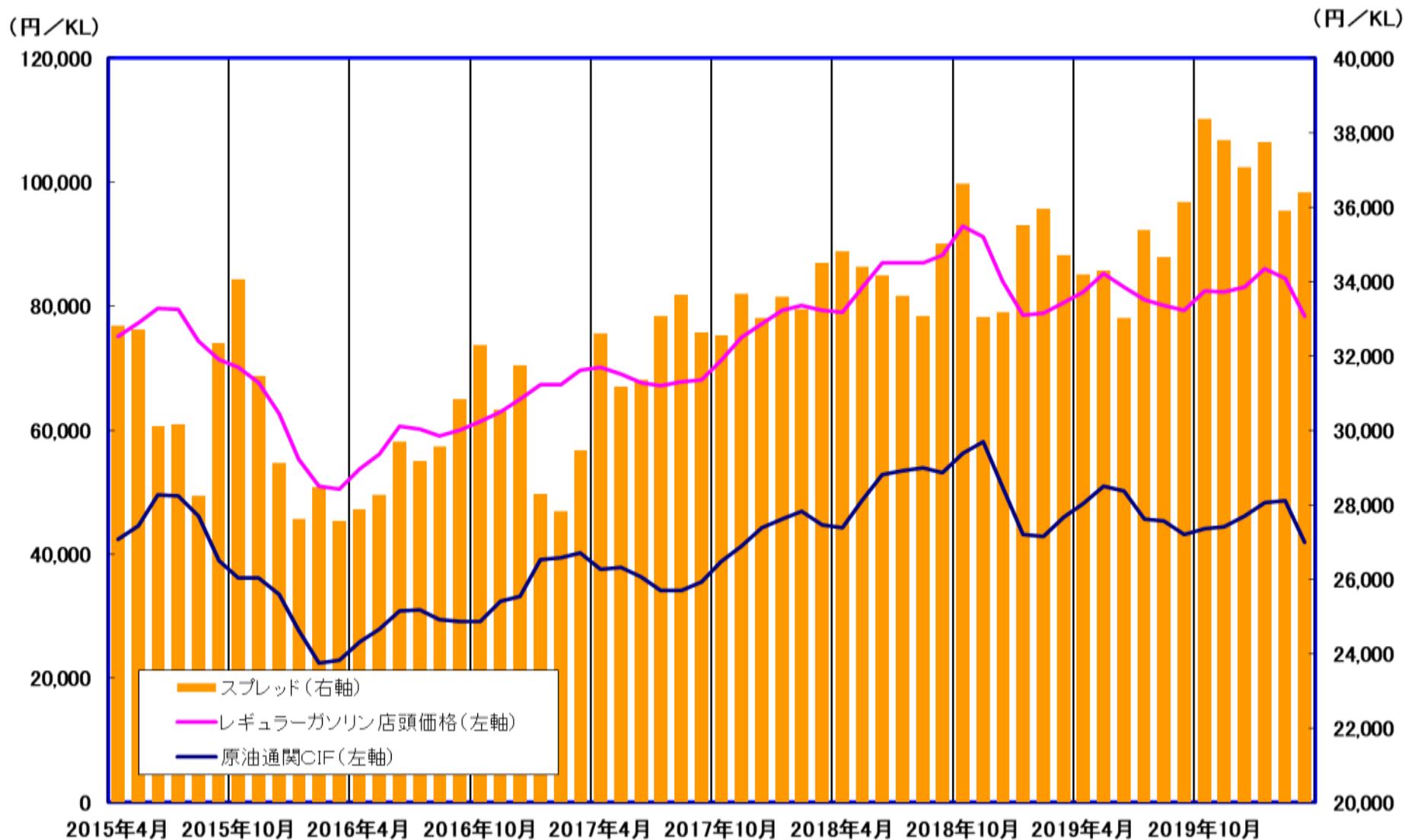
5. 市況

(1)原油価格(ドバイ、ブレント)



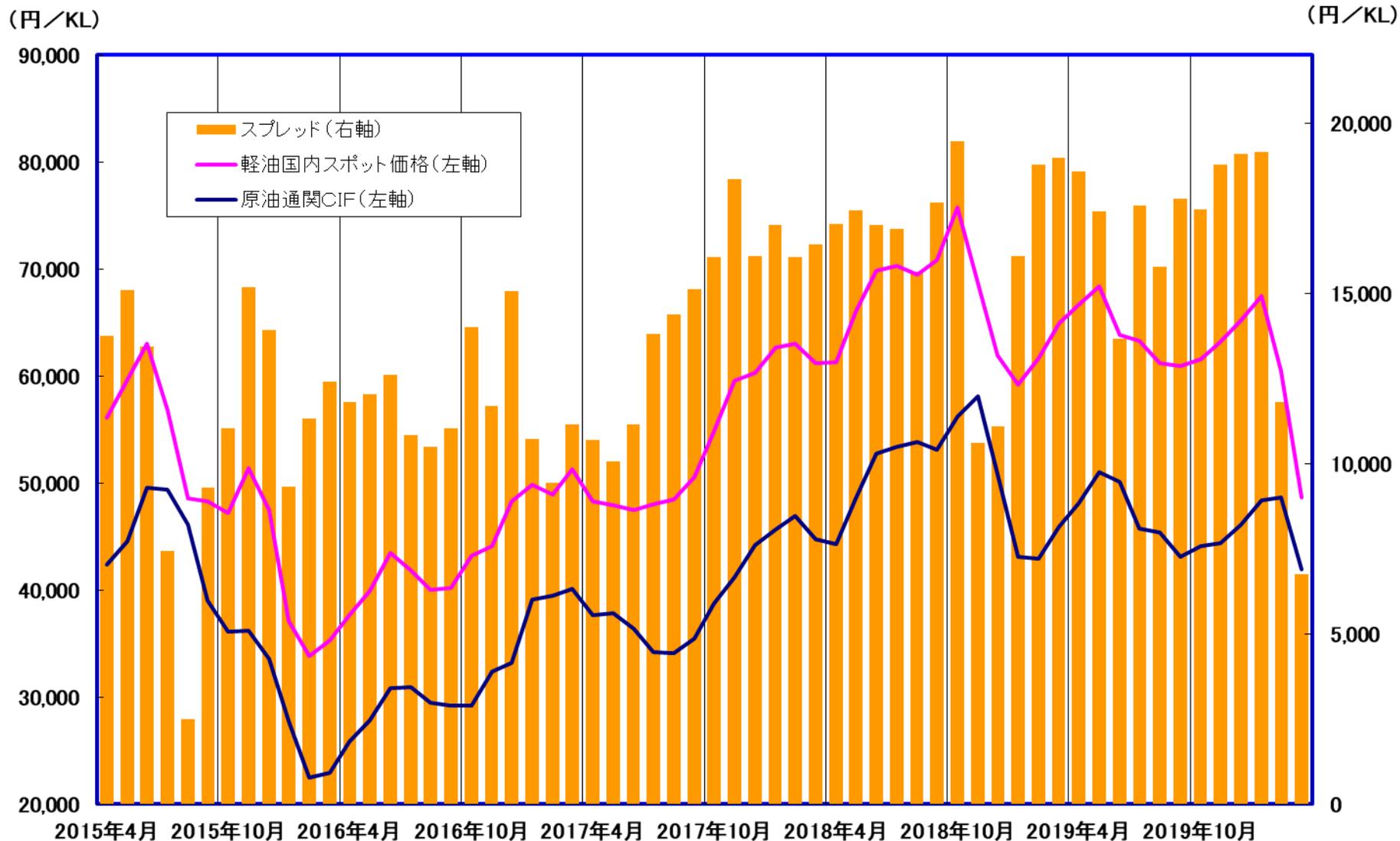
5. 市況

(2) ガソリンー原油CIF (価格推移 & スプレッド)



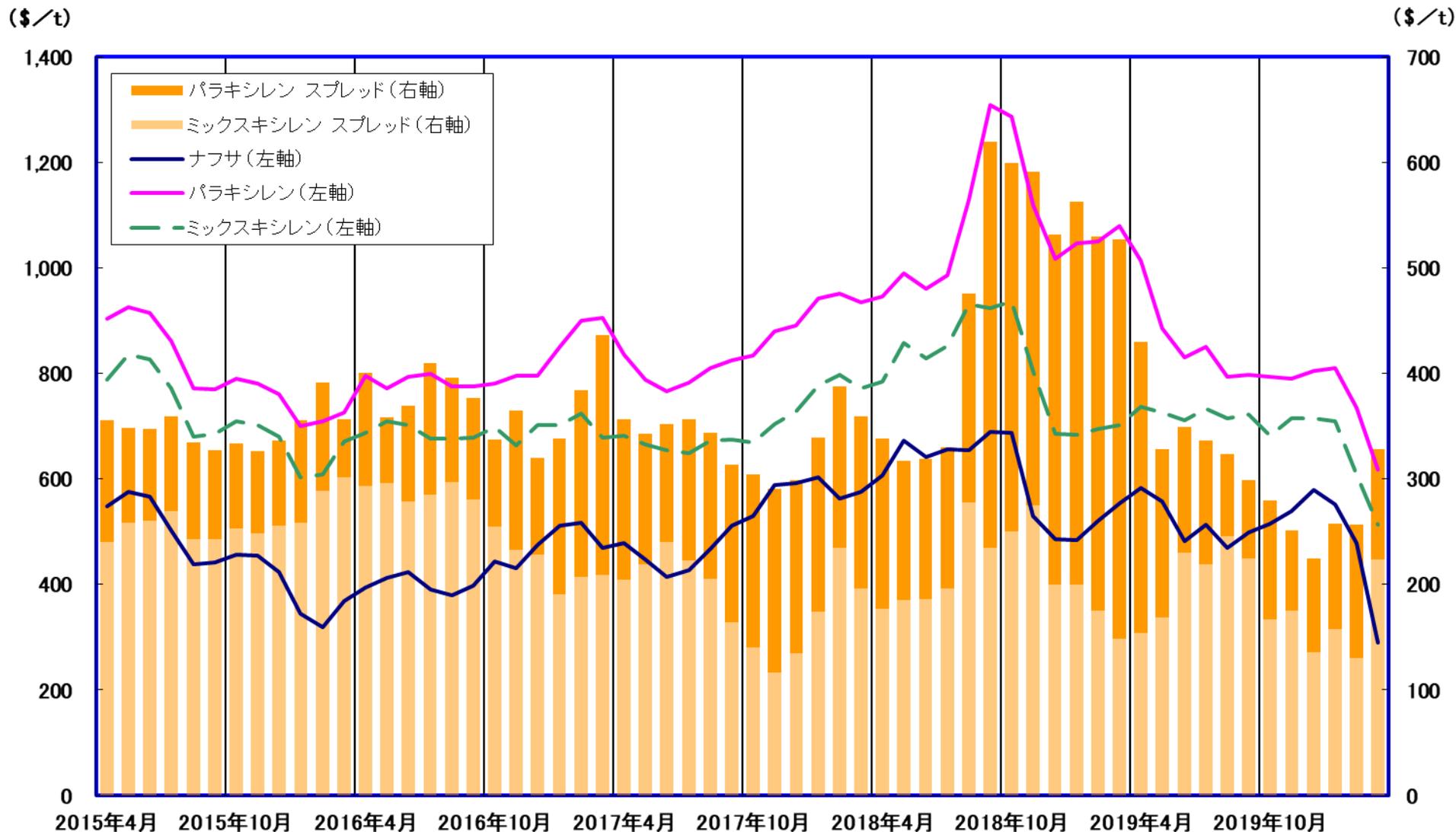
5. 市況

(3) 軽油－原油CIF (価格推移 & スプレッド)



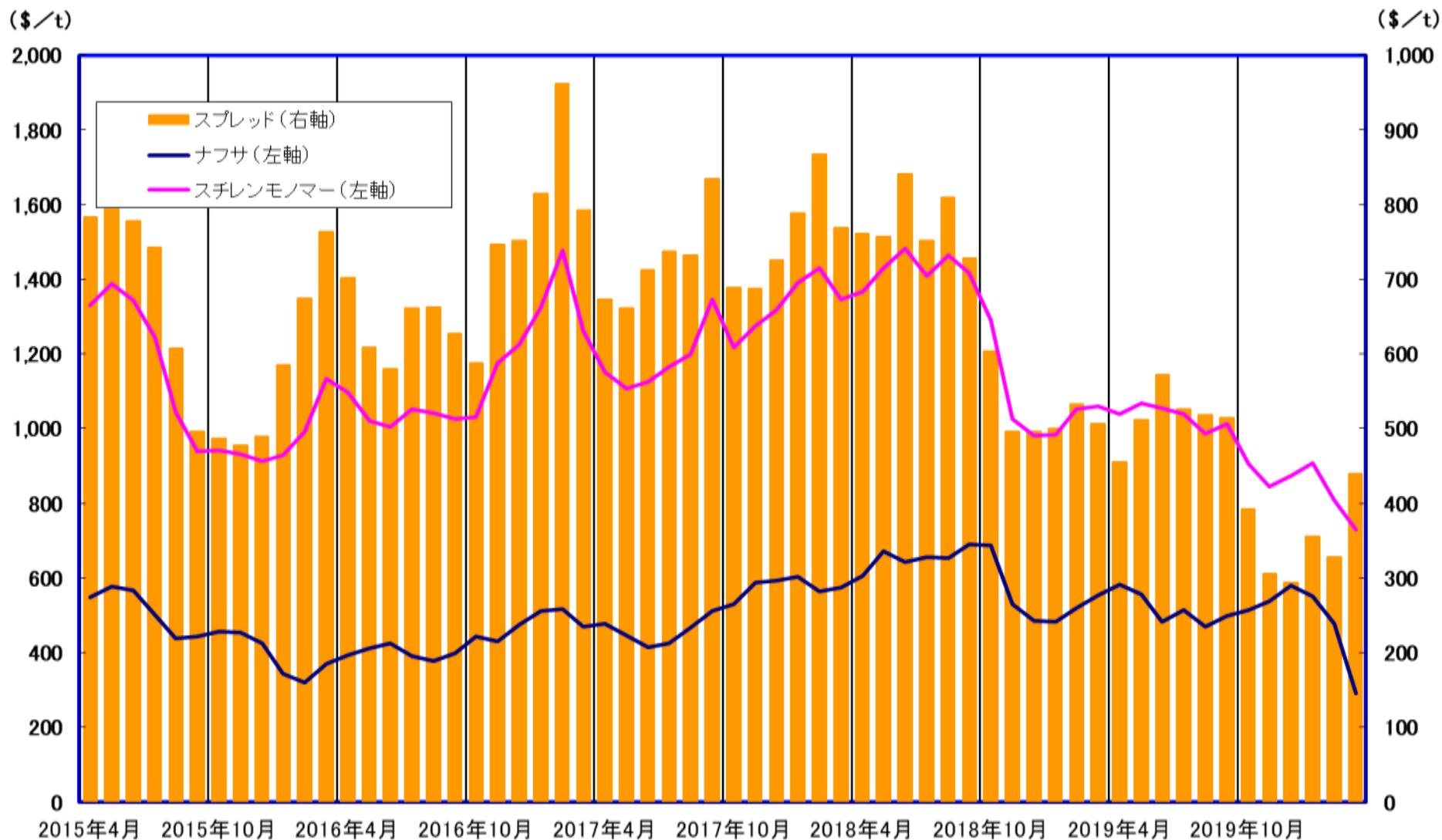
5. 市況

(4) パラキシレン、ミックスキシレン－ナフサ(価格推移&スプレッド)



5. 市況

(5) スチレンモノマーナフサ(価格推移&スプレッド)



6. 製油所稼働の状況

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
出光興産	86%	88%	88%	88%	87%
昭和シェル	91%	85%	88%	93%	

※稼働率はBCDベース

7. SS数推移

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
出光興産	3,666	3,589	3,545	3,501	3,446
昭和シェル	3,193	3,123	3,028	2,964	2,938
合計	6,859	6,712	6,573	6,465	6,384

見通しに関する注意事項

本資料に記載されている当社の業績見通し、戦略、経営方針などのうち、歴史的事実でないものは、将来に関する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づいて作成しております。

実際の業績に影響を与え得る要素には、経済情勢、原油価格、石油製品の需要動向、市況、為替レートおよび金利など、潜在的リスクや不確実性があるものを含んでおります。

従いまして、実際の業績は、これらの重要な要素の変動により、業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることを、ご承知おきください。